

# ロザリオの祈り方

1. 十字架像で、十字架の印をして使徒信経を唱えます。(われは、天地の創造主、全能の父なる天主を信じ、またその御独り子、われらの主イエズス・キリスト、すなわち聖霊によりて宿り、童貞マリアより生まれ、ポンシオ・ピラトの管下にて苦しみを受け、十字架に付けられ、死して葬られ、古聖所に降りて三日目に死者のうちよりよみがえり、天に昇りて全能の父なる天主の右に坐し、かしくより生ける人と死せる人とを裁かんために来り給う主を信じ奉る。▲われは聖霊、聖なる公教会、諸聖人の通功、罪の赦し、肉身のよみがえり、終りなき命を信じ奉る。アーメン。)

2. 次に大珠で、主祷文を唱えます。(天にましますわれらの父よ、願わくは御名の尊まれんことを、御国の来らんことを、御旨(みむね)の天に行わるる如く地にも行われんことを。▲われらの日用の糧を、今日(こんにち)われらに与え給え。われらが人に赦す如く、われらの罪を赦し給え。われらを試みに引き給わざれ、われらを悪より救い給え。アーメン。)

3. 次に大珠で、主祷文を唱えます。(めでたし、聖寵充ち満てるマリア、主御身と共にまします。御身は女のうちにて祝せられ、御胎内の御子イエズスも祝せられ給う。▲天主の御母聖マリア、罪人なるわれらのために、今も臨終の時も祈り給え。アーメン。)

4. 栄唱を唱えます。(願わくは、聖父と聖子と聖霊と共に栄えらんことを。▲始めにありし如く、今もいつも世々にいたるまで。アーメン。)



5. 大珠で、私たちは聖なるロザリオの玄義の黙想を始めます。第一玄義(喜び、苦しみ、あるいは、栄えの玄義)を唱え、その後、主祷文を唱えます。

6. 小珠で、玄義を黙想しながら、天使祝詞を10回、唱えます。最後に栄唱とファティマの牧童の祈り「ああイエズスよ、…」を唱えます。

7. 大珠で、第二玄義(喜び、あるいは、苦しみ、あるいは、栄えの玄義)を唱え、その後、主祷文を唱えます。

8. 玄義を黙想しながら、天使祝詞を10回、唱えます。最後に栄唱とファティマの牧童の祈り「ああイエズスよ、…」を唱えます。

9と10、11と12、13と14は、7と8同様に唱えます。

# 無原罪の聖母の呼びかけ

聖母マリア様は、聖なるロザリオを信者が唱えることを強く求めていらっしゃいます。今日の人間社会の有様は、世界中、本当に悲しむべき状態です! 隣人愛というものを見出すことが本当に難しくなっています。人間の心の中から、愛、善良さ、そして、正義が消えかかっています。一人一人の人間の尊厳が忘れ去られています。現代人は、人権



やお金や、いかに安逸に暮らすかという事を話題にしますが、精神的に真に価値のあることが何であるかは念頭にないのです。

のような悲しい状況を変えていくために私たちには何ができるのでしょうか? ファティマの聖母マリア様は、私達に救いへの道を指し示してくださいました。暴力という武器に対しては祈りという武器によって対抗せねばなりません。聖母は私たちに、玄義を黙想しながらロザリオを唱えるよう呼びかけました。これらの玄義には、全福音の核心部分が網羅されています。私たちが

はロザリオをたくさん唱える必要が有ります。しかも、心を込めて唱える必要が有ります。

## ファティマの牧童の祈り

ああイエズスよ、我等の罪を許したまえ。我等を地獄の火より救い給え。またすべての靈魂、ことに、主の御憐れみを最も必要とする靈魂を天国に導き給え。



MILITIA IMMACULATAE

[www.militia-immaculatae.info](http://www.militia-immaculatae.info)

[info@militia-immaculatae.asia](mailto:info@militia-immaculatae.asia)

[www.kolbepublications.com](http://www.kolbepublications.com)

[www.knightlibrary.wordpress.com](http://www.knightlibrary.wordpress.com)

# 毎日の ロザリオを



# 無原罪の聖母に

# 15分を捧げましょう

# 喜びの玄義



## 1. 御告げ

黙想すべき事： 天使はマリアのところに来て、「めでたし、恩寵に満ち満ちる御方！主は御身と共にまします。御身は女のうちにて祝せられ給う」と言った。（ルカ1:28）



## 2. 御訪問

黙想： エリザベトは聖霊に満たされて、「御身は女のうちにて祝せられ、御胎内の御子も祝せられ給う」と声高く叫んだ。（ルカ1:41-42）



## 3. イエズスの御誕生

黙想：そしてマリアは初子を生み、産着に包んで、まぐさ桶にその子を横たえた。それは、宿屋に部屋が無かったからである。（ルカ2:7）



## 4. 御奉獻

黙想： モイゼの律法に従い、彼女が清められる日になった時、彼らは、子を主に捧げるためにイエルザレムに連れて行った。（ルカ2:22）



## 5. 神殿にイエズスを見出したもう

黙想： 三日目に、神殿で、イエズスが学者の中に座り、聞いたり訊ねたりしておられるのを発見した。（ルカ2:46）

# 苦しみの玄義



## 1. ゲッセマネの園での苦悩

黙想： 御汗は、血の雫のように地に落ちた。祈りを終えて、立ち上がり、弟子たちのところに来られると、かれらが、悲しみのうちに眠っているのを御覧になった。（ルカ22、44-45）



## 2. 鞭打ち

黙想： それからピラトはイエズスを引き出し、鞭打たせた。「彼は私たちの罪のために、突き刺され、私たちの悪のために、押しつぶされた。私たちを救う罰が、彼の上に襲い掛かり、その傷のおかげで、私たちは癒された」（イザヤ53:5）



## 3. 棘の冠を押し被らせられ給う

黙想： それから総督の兵卒たちは、イエズスの服をはいで赤いマントを着せ、棘の冠を編んでおん頭に被らせ、右の手に葦竹を持たせた。（マテオ 27、28-29）



## 4. 十字架を担い給う

黙想： イエズスは十字架を担い、ヘブライ語でゴルゴタと呼ばれる「されこうべ」というところに行かれた。（ヨハネ19:17）



## 5. 十字架刑

黙想： イエズスは「父よ、私の霊を、み手にゆだねます」と大声で叫ばれた。そして、素晴らしいながら、息が絶えた。（ルカ23、46）

# 栄えの玄義



## 1. 御復活

黙想： 「イエズスはよみがえって、もうここにはおいでにならない。彼が納められてあったところを御覧。」（マルコ16:6）



## 2. 御昇天

黙想： そう話し終えて、主（イエズス）は天に上げられ、天主の右にお座りになった。（マルコ16:19）



## 3. 聖霊降臨

黙想： 突然、天から、烈しい風が吹いてくるような音が聞こえて、彼らが座っていた家に満ちた。（使徒行録 2:2）



## 4. 聖母の被昇天

黙想： 光栄に満ちた民に、主の領土に、その所有地に、私は根を張った。（集会の書 24:16）



## 5. 聖母は天地の元後に立てられ給う

黙想： それから、壮大なしるしが天に現れた。太陽に包まれた婦人があり、その足の下に月があり、その頭に十二の星の冠をいただいていた。（ヨハネの黙示録12:1）